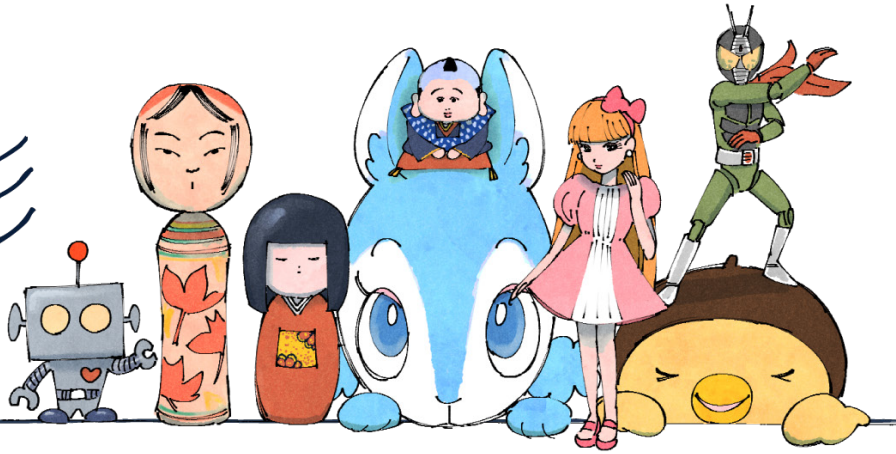


もっと!

日本と人形

ひな人形、五月人形、ロボットや着せ替え人形、最近ではカプセルトイやフィギュアまで。人形は、誰もが一度は触れあったことがあるおもちゃではないだろうか。今回の特集では日本と人形の関係について読み深められる書籍を紹介する。



桐竹勤十郎 / 著、小学館、2014年、所蔵：中央・中野東

『文楽へようこそ』
淡交社から刊行されている雑誌『なごみ』に、2007年1月〜2008年6月まで連載されていた文章を、まとめて一冊にしたのが本書だ。全18回の連載で、日本の人形の歴史と文化を紐解いていく。掲載されている人形たちは、土偶から美少女フィギュア、からくり人形や指人形まで様々。思わずドキリとするような妖しい雰囲気を持つ人形たちが、写真付きで紹介され、作り手たちの個性が光るインタビューも読み応えがある。



佐々木幹郎 / 著、淡交社、2009年、所蔵：中央

『人形記』



江戸時代に大阪で生まれた人形芝居「文楽」。そんな文楽に親しみを感じ、楽しむために作られたガイドブック。
文楽界で活躍する著者の二人が選ぶ「私が好きな演目ベスト10」では、有名な演目が写真つきで解説されており、読めば鑑賞してみたくなること間違いなし。他にも対談、文楽ゆかりのスポット紹介、楽屋裏を描いた漫画まで収録されている。
文楽を知り尽くしている人も、これから文楽を鑑賞しようとする人も、どちらも楽しめる内容になっている。

『はじめましての郷土玩具』



甲斐みのり / 著、中村浩訳 / 監修、グラフィック社、2015年、所蔵：中央

本書は、日本各地で愛されている郷土玩具にスポットを当てて紹介している。書名に「はじめまして」とあるように、大きさや玩具の由来な

どをカラー写真と共に見ることができ。全ての郷土玩具に作り手の愛情や願いがこめられており、ページをめくって眺めていると、なんだか手元に置きたくなってしまふ。
人形以外の郷土玩具も沢山紹介されており、その素朴さや愛らしさに読んでいて心が温まる。

『こけし図譜』



佐々木一澄 / 絵と文、誠文堂新光社、2020年、所蔵：中央・中野東

東北6県で主に作られる、轆轤で挽かれた木の人形「こけし」。作る職人によって表情が変わるこけしの魅力を、文化・風土・意匠・工人、すべての面から一冊で学ぶことができる。こけしに対する深い愛情を感じることで、できる優しいイラストがページに華を添えている。起源や歴史も含め、この本一冊でこけしの魅力をたっぷり味わうことができる。



※ 本誌の掲載内容・お知らせ情報は記事作成当時のものです。